

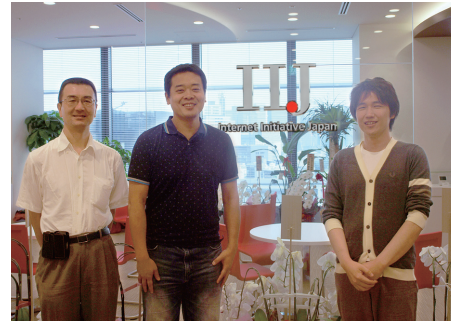
シングルサインオン製品

OSSのディレクトリサーバー

# OpenAM OpenLDAP 導入事例

株式会社 **インターネットイニシアティブ (IIJ)** 様

「OpenAM」「OpenLDAP」の導入により、  
さまざまなサービスの認証を統合  
他社でも使える共通ID「IIJ ID」の普及を目指す



日本初のインターネット接続事業者として創業した株式会社インターネットイニシアティブ(以下、IIJ)。現在では、IIJグループとして8,500社以上の顧客に製品・サービスを提供しています。しかしここにて、各サービスで利用するIDが異なること、さまざまなアカウント体系やポリシーが混在していることが問題となり、共通体系下の管理への移行を考えるようになりました。そこで同社は統合認証プロジェクトを立ち上げ、課題解決のためのソリューションとして複数の製品を比較・検討。結果、オープンソース・ソリューション・テクノロジー(以下、OSSTech)が提供するシングルサインオン(SSO)製品「OpenAM」「OpenLDAP」を採用しました。現在は、社内外のサービスで利用できる共通ID「IIJ ID」を用い、順次、「OpenAM」による認証基盤を各サービスへ展開していく計画です。

## 課題

提供するサービスごとにIDとパスワードが異なるため、ユーザーの管理が煩雑に

## 解決

新たな認証基盤「IIJ ID」を導入、  
認証の統合を推進  
他社サービスとの連携も目指す

### 日本初のインターネット接続事業者 卓越した技術力をもとに一大成長

1992年、日本初のインターネット接続事業者として設立されたIIJは、我が国におけるインターネットビジネスのパイオニアとして広く知られています。同社はIPのプロフェッショナル集団として培った高い技術力をベースに、「IIJ GIO (ジオ)」のブランドで提供するクラウドなどのアウトソーシングサービス、WANサービス、システムインテグレーション等をトータルに提供するソリューションプロバイダーとして事業領域を拡大。ネットワークに関するお客様のあらゆる要望へワンストップで応える企業グループとして一大成長を遂げました。今ではIIJグループとして8,500社以上の顧客へ製品・サービスを導入しています。

### 各種サービスの認証の統合を目指し プロジェクトを立ち上げ

近年の事業領域の拡大に伴い、IIJはさまざまなサービスを提供するようになりましたが、ここで浮かび上がってきたのがサービスごとに異なるIDの管理・認証という問題でした。一昔前、回線サービスやDNSサービスが中心のころは、IDを扱うのは企業のシステム担当だけでしたし、エンドユーザーが直接IIJとやりとりすることもありませんでした。しかし現在、メールやファイル共有、ホスティング

などのサービスではIDが個別のユーザーと紐づくため、利用者は自らアカウントを管理しなくてはなりません。今どきはどのユーザーも複数のサービスを利用するのが当たり前ですが、サービスごとにパスワードを変えていては面倒、しかしセキュリティ面を考えれば同じパスワードを使い回すのも問題が…と、ユーザーにとって困った状況がありました。「こうした問題もあり、各サービスで共通して利用できるIDの必要性が高まっていたものの、それぞれのサービスは基本的に縦割りで完結しています。そのため、IDが異なるだけでなく、さまざまなアカウント体系やポリシーが混在しており、体系的な結合は困難でした。しかし今後、認証やID管理といった技術がますます重要となってくると考えられたため、IIJとしてもこの問題へ本格的に取り組むことを決断。2012年に統合認証プロジェクトを立ち上げ、共通ID『IIJ ID』の導入を目指すことになりました」とプロダクト本部 基盤プロダクト開発部 応用開発課長の齋藤 透氏はその背景を語ります。

### 実績と信頼性からOSSTech版 「OpenAM」「OpenLDAP」を選択 同社のコンサルティングも活用

IIJはこのプロジェクトにおいて、課題解決のためのソリューションとして10以上の(→)



- ・社名 株式会社インターネットイニシアティブ
- ・代表取締役社長 勝 栄二郎
- ・設立 1992年12月3日
- ・資本金 229億5800万円
- ・従業員数 2,353名(連結)
- ・事業内容  
インターネット接続サービス、WANサービスおよびネットワーク関連サービスの提供、ネットワーク・システムの構築・運用保守、通信機器の開発および販売

### お話をうかがった皆さん



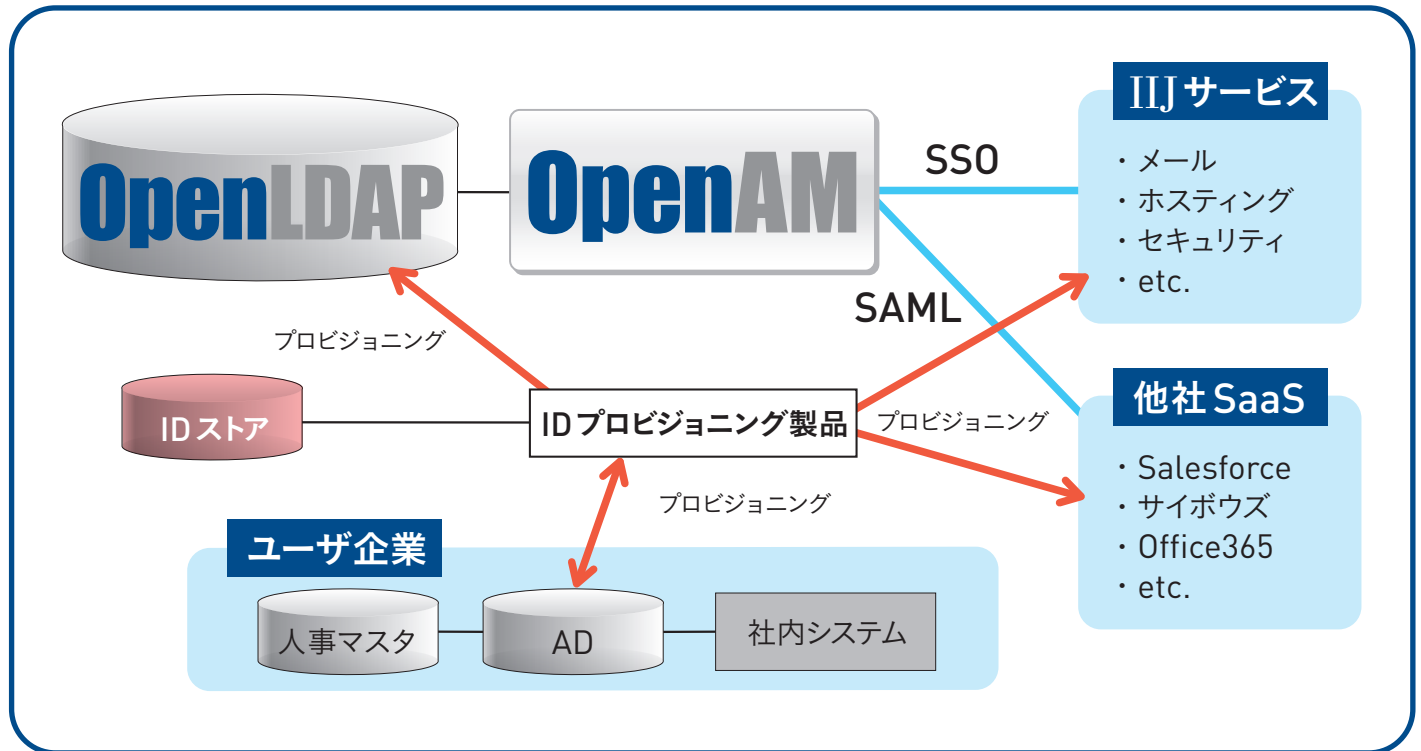
プロダクト本部  
基盤プロダクト開発部  
応用開発課長  
齋藤 透 氏



プロダクト本部  
基盤プロダクト開発部  
応用開発課  
リードエンジニア  
伊藤 淳夫 氏



プロダクト本部  
基盤プロダクト開発部  
応用開発課  
シニアエンジニア  
山本 茂 氏



(→) SSOソフトウェアをリストアップ。その選定の過程で同社の興味を引いたのがオープンソースソフトウェアであり、中でも抜群の実績を持つ「OpenAM」でした。そこで2013年2月、同社は情報収集を目的に、関連技術者が集まるイベントに参加。そこでOSSTechと知り合ったのです。

「弊社のスタッフはオープンソースソフトウェアが好きなのが多いですね。その最大の理由として挙げられるのが、自分達でソースコードが見られる点。これなら、トラブル時にわざわざベンダーへ問い合わせずとも自力で対処できます。『サービスをできる限り止めない』という意味では大きな利点ですね」と齋藤氏は述べ、さらに「あらゆるサービスのゲートウェイであるIDや認証は、極めて重要な部分です。それだけに、この種のソフトウェアのデファクトスタンダードであり、実績と信頼性、低コストなどの特長を兼ね備えた『OpenAM』『OpenLDAP』を選ぶのは自然の成り行きでした。OSSTechについては、実際に会ってお話をうかがい、その豊富な技術力とノウハウ、運用におけるきめ細かいサポートなどに魅力を感じ、OSSTech版『OpenAM』『OpenLDAP』を採用。コンサルティングもお願いすることに

しました」と当時を振り返ります。

### 手順書の作成や勉強会の実施で導入を幅広くサポート

5月にOSSTechからの提案を受けたIIJは、翌6月に「OpenAM」「OpenLDAP」の採用を決定。さまざまな検証を重ねた上で、11月にルータ管理システム「SACM」とオンライン販売基盤「LaIT」(ライト)の両サービスに新たな認証基盤「IIJ ID」を導入しました。「SAMLなどのプロトコルを扱うのは我々にとっても初めての経験でしたが、OSSTechには数多くの助言をいただきました。検証の際、どのような問題が起こるのかなどは、教えてもらわなければわからないことでしたし、LDAP内でのマルチテナントの構成や必要なリソース量などについても、的確なアドバイスをもらったことで、予定通りのカットオーバーが実現しました」と応用開発課 シニアエンジニアの山本 茂氏は語ります。

さらにOSSTechでは、今後の他のサービスへの水平展開を視野に、バージョンアップやテナント追加時における手順書の作成、社内勉強会の実施等を通じて導入を幅広くサポートしました。

### 残りのサービスにも順次展開 他社サービスと連携したIDaaSも検討

IIJでは現在、残りのさまざまなサービスについて、「IIJ ID」を使って順次、「OpenAM」による認証の統合を進めていく方針です。またこれと同時にキャリアの立場から、統合認証の仕組みを他社のサービスへ提供するIDaaS (Identity as a Service) を目指しています。

「SSOの利便性だけで顧客から料金をいただくというのは難しいので、今後は例えば、多要素認証によるセキュリティの強化やログ管理なども訴求していきたいと考えています。その意味からも、『OpenAM』の機能拡張の部分は重要なテーマになると思いますので、ぜひOSSTechさんの支援をお願いしたいですね」と応用開発課 リードエンジニアの伊藤 淳夫氏は将来への期待を語りました。

### 今回の導入製品

- OpenAM
- OpenLDAP